

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 27 年 12 月 5 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生
氏名	田島夏子

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
熊本サクチュアリ (熊本県)
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
動物福祉学実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 27 年 11 月 24 日 ~ 平成 27 年 11 月 27 日 (4 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
熊本サクチュアリ 森村成樹准教授
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の実習は、飼育下ボノボ、チンパンジーへの環境エンリッチメント、採食エンリッチメント、認知的エンリッチメントの実践を通して、飼育下動物の動物福祉について学んだ。
今回の実習の日程は以下の様である。
11/24 熊本サクチュアリ着 施設内見学・エンリッチメントおもちゃづくり 11/25 おもちゃづくり・ボノボ、チンパンジーへの採食エンリッチメント見学・ボノボへおもちゃエンリッチメント実験 11/26 ボノボのお誕生日会・チンパンジーへのおもちゃエンリッチメント実験 11/27 結果発表会 京都着
一日目は、熊本サクチュアリに到着後、施設内の見学を行った。熊本サクチュアリには現在 57 人のチンパンジー、6 人のボノボが暮らしている。私は、今回ボノボを初めて見たが、まずはその声の高さにびっくりした。チンパンジーは、興奮している時、嬉しい時など場面によって、発する声異なるが、ボノボはどんな時も甲高い声を発するそうである。また、くりくりした丸い目でこちらをじっと見てくることも印象的だった。
熊本サクチュアリでは、快適に、楽しい生活を送れるよう、様々なエンリッチメントが行われており、それらを見学した後、自分たちでボノボ、チンパンジーが遊べるおもちゃを考えるという課題に取り組んだ。2 人一組でチームを作り、一番長くボノボ、チンパンジーが扱ったおもちゃが最優秀おもちゃに認定されるという課題であり、各チームが計画、作成に取り組んだ。
二日目は、各チームでおもちゃを完成させた後、ボノボ、チンパンジーへの Box エンリッチメントという採食エンリッチメントを見学した。これは、段ボールにいろいろな餌を詰めてケージの上に入れ、そこからボノボたちが好きな餌を探して食べるというものである。段ボールがほおられた瞬間、大騒ぎをし、順位が高い個体は良い餌をたくさんつかんで食べ、順位が低い個体はなかなか餌が得られずあたふたしている姿は観察していてとても面白かった。個体によって、好きな餌が異なるようで、ペットボトルに入ったフルーツをちびちび取り出して食べる個体や、ジュースばかりつかんでおいしそうに飲む個体など、思い思いに楽しんでた。
午後には、自分たちで作製したおもちゃをボノボのケージに設置して、観察を行った。私は、有賀さんとともに「コロコロ soy ボール」と名付けた装置を作った。箱の中に、餌の入ったボールがあり、箱に空いた穴から枝を突っ込みボールを転がすとボールに空いた穴から大豆がこぼれて箱の下の筒に入り、筒に空いた穴からさらに枝を突っ込んでその大豆を出せたら、食べれる、というものである。
ボノボたちは、最初は他のチームの大きなおもちゃに走って行って遊んでいたが、しばらくすると私たちのおもちゃに興味を示し、遊んでくれた。しかし、枝は使わず指を突っ込んだり、筒から大豆がうまく落ちないので箱の穴から直接大豆を取り出したり予想外の遊び方をしていた。しかし、観察時間 1 時間中 48 分も遊んでいた。特に、ルーズというメスのボノボが 850 秒とひとときわ長く遊んでいた。

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

三日目は、ポノボのスズケン（イケラ）のお誕生日会を行った。フルーツや野菜をきれいに飾り付け、食べてもらった。フルーツをガーランドのように飾ることなど初めてであったし、皆で相談して飾り付ける作業が楽しかった。ポノボたちも飾りをばらばらにしながら食べてくれたので、よかった。

午後は、チンパンジーのケージ内におもちゃを設置し、再び観察した。ポノボと違い、チンパンジーはうまく大豆が出ないと装置にアッパーパンチを食らわせたり、上下左右にゆすったりと動きが激しく、ついには装置を固定していた針金をとって直接穴から口に大豆を流し込んでいた。ポノボよりも予想外の遊び方だったものの、チンパンジーの場合も、観察時間一時間中、2個の装置合わせて1時間56分も遊んでいた。また、一番長く遊んでいた個体は1533秒も遊んでおり、ポノボよりも、一個体の遊びの持続時間が長い印象が見られた。

最終日は、ポノボ、チンパンジーへのおもちゃ投入の観察結果を発表した。嬉しいことに、ポノボ、チンパンジー合わせて遊んでいた時間は私たちのおもちゃが一番長かった。飼育員さん方からの評価も高く、嬉しかった。試行を何段階も行わないと取り出せないところが、遊び時間の持続につながったと考えられる。

エンリッチメントの道具が動物園などで入れられているところはめにしたことはあるが、その装置を自分たちで一から考えて作るということは思っていたよりも難しかったが、とても楽しかった。動物についての知識を活用して、どんなものがあればどんな行動を引き出せるかという想像力を働かせることの大切さ、そして自分たちでなんでもつくってしまうことの重要性、楽しさを学んだ。とても充実した実習であった。



コロコロ soy ボール (Big)



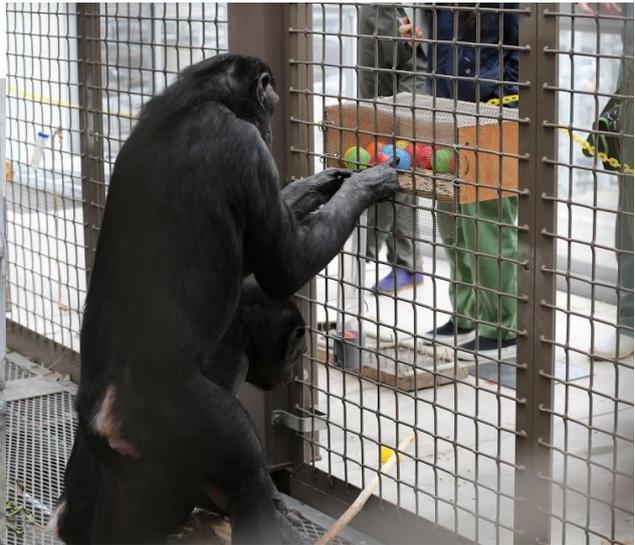
コロコロ soy ボール (Small)

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



コロコロ soy ボールで遊ぶチンパンジー



コロコロ soy ボールで遊ぶボノボたち



スズケン（イケラ）のお誕生日会

6. その他 (特記事項など)

実習中に様々なことを教えていただいた森村准教授を初めとして、装置の取り付けなどたくさんのご協力をいただいた熊本サンクチュアリの皆様に心から感謝いたします。また、引率して下さった平田教授、山梨特定助教授に深くお礼申し上げます。最後に、この実習を支援して下さった PWS プログラム関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。